

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛			
内科学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
内科学の各疾患について学習し理解する											
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な内科的疾患について診察・検査・診断について学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 内科学					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	内科学とは					臓器のグループ・疾患のグループについて					
2	症候学					各症候について理解する					
3	呼吸器の臨床解剖・生理					呼吸器について理解する					
4	呼吸器疾患1					各疾患について理解する					
5	呼吸器疾患2					各疾患について理解する					
6	循環器の臨床解剖・生理					循環器について理解する					
7	循環器疾患1					各疾患について理解する					
8	循環器疾患2					各疾患について理解する					
9	消化管の臨床解剖・生理					消化器について理解する					
10	消化管疾患1					各疾患について理解する					
11	消化管疾患2					各疾患について理解する					
12	肝・胆・膵の臨床解剖・生理					肝・胆・膵について理解する					
13	肝・胆・膵疾患					各疾患について理解する					
14	前期まとめ					前期のまとめ					
15	期末試験										
〔評価について〕 中間試験30% 期末試験70% 59%以下を不合格とする。					〔特記事項〕 日時変更の場合あり・リモート授業の場合あり						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名		渡辺 寛								
神経内科学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 神経内科学の分野は広く、リハビリテーション医学を学ぶうえで大変重要であり、理学療法において外すことのできない学問である。神経内科を知っているかどうかで、神経内科的な疾患のみならず、それ以外の疾患に対する理学療法を行うときにも大きく結果が変わってくる。理学療法を行うために是非とも神経内科学についての知識を深めてほしい。										
〔到達目標〕 ・神経内科学を理解するために必要な基本的知識を調べ、準備することができる。 ・神経内科学について理解し、説明することができる。										
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	イントロダクション				神経内科学の全体像について説明することができる					
2	中枢神経系の解剖と機能1				中枢神経系の解剖と機能について説明することができる					
3	脳血管系の解剖				脳血管系の解剖について説明することができる					
4	中枢神経の解剖と機能2				中枢神経の解剖と機能について説明することができる					
5	神経学的症候学1 運動麻痺・錐体路				運動麻痺・錐体路について説明することができる					
6	神経学的症候学2 錐体外路・不随意運動・失調				錐体外路・不随意運動・失調について説明することができる					
7	神経学的症候学3 感覚障害				感覚障害について説明することができる					
8	神経学的症候学4 高次脳障害・失語・失行・失認				失語・失行・失認について説明することができる					
9	神経学的症候学5 高次脳障害・記憶・注意				記憶・注意について説明することができる					
10	神経学的症候学6 高次脳障害・構音・嚥下				構音・嚥下について説明することができる					
11	神経学的診断				神経学的診断について説明することができる					
12	神経学的検査1 画像				画像について説明することができる					
13	神経学的検査② 電気生理・検体				電気生理・検体について説明することができる					
14	前期まとめ									
15	期末試験									
〔評価について〕 期末試験70% 小テスト30%で59%以下を不合格とする。					〔特記事項〕 授業変更・遠隔授業の可能性あり					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名		中島 圭吾								
物理療法学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕										
実際の理学療法の現場でおこなわれる各種物理療法機器を実際に使用できるようになるために、基本原理と注意 点、使用方法を説明し、実践練習をおこなう。実際に運動器理学療法等で経験を積んだ教員による臨床的知識も伝達 する。安全に留意して、実技に積極的に参加する姿勢が求められる。(授業スケジュールは変更の場合あり)										
〔到達目標〕										
・各種物理療法機器に関する基本的原理、禁忌と適応を理解し、説明できるようになる。 ・実技において使用感、被使用感を体感し、他者に説明できるようになる。(実技は社会状況に応じて変更あり) ・操作練習を通じて、実施上の注意点を理解し、病院実習前に自主練習できるようになる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
・「物理療法学」(医学書院) ・Teamsデータ配布										
回	〔授業概要〕 月曜3限実施				到達目標(できるようになること)					
1	4/4 オリエンテーション ～物理療法とはなにか～ 物理療法の基礎				授業の準備ができるようになる。学習内容の概略を説明で きるようになる。					
2	4/11 物理療法のための生理学・病態の理解1				物理療法の背景にある基礎的な生理学的知識は何かを 知り、説明できる					
3	4/18 物理療法のための生理学・病態の理解2				物理療法の背景にある基礎的な生理学的知識は何かを 知り、説明できる。					
4	4/25 寒冷療法(1) 寒冷の基礎				寒冷療法の生理的効果を理解し、説明できる。					
5	5/9 寒冷療法(2) 各論				アイスパックなど基本的な寒冷療法の実施方法、禁忌と適 応について理解し説明できる。					
6	5/16 マッサージ療法(1)				マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からの フィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)					
7	5/23 マッサージ療法(2)				マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からの フィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)					
8	5/30 マッサージ療法(3) 中間レポート				マッサージ療法の基本的手技を実践し、対象者からの フィードバックを得る。(ハーフパンツ・Tシャツで参加)					
9	6/6 温熱療法(1) 温熱の基礎				温熱療法の種類・目的・生理学的効果を説明できるよう になる。					
10	6/13 温熱療法(2) 各論 極超短波・赤外線				赤外線・極超短波療法の禁忌と適応について理解し、説明 できる。					
11	6/20 温熱療法(3) 各論 ホットパック・パラフィン				温熱の基礎知識をもとに、ホットパック・パラフィンの利 用手順、禁忌と適応について理解し、説明できる。					
12	6/27 温熱療法と寒冷療法				これまでに学んだことを生かして、物理的刺激が生体に与 える効果を体感する。					
13	7/4 水治療法				水治療法の生理的効果、禁忌と適応について理解し、説 明できる。					
14	7/11 予備・国家試験問題演習				前期に学習した内容の補足と国家試験問題演習					
15	7/18 (祝日開講)前期の振り返りと期末試験(筆記)				前期に学習した知識を確認する					
〔評価について〕				〔特記事項〕						
評価は〔中間レポート〕〔筆記試験〕〔小テスト・確認レポート〕 の合算とする。〔中間レポート〕(20点)〔筆記試験〕(期末に実 施)(60点)〔小テスト・確認レポート〕計20点の合計100点で評 価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢(新型コロナ)に 応じて変更となる場合があります。				毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲 覧できるように、タブレット・ノートPCを推奨する(スマホでは見にくい可能性 あり)→本年度より紙資料配布はしません。 実施内容は社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								前田祐貴			
解剖学Ⅱ(内臓)				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として医学的・科学的知識をもち、臨床現場で幅広い視野のもと治療の一端を担いかつスペシャリストとなるため学習し理解する。自己の将来の目標を常に見つめ目的意識を持って授業に集中し毎回復習を行う。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要な解剖学的知識を習得し、理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
標準理学療法学・作業療法学 解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	消化器概論					消化器を学び理解する					
	消化器:口腔、咽頭					主に嚥下反射を理解する					
3	消化器:食道、胃					食道・胃の構造と特徴、働きを理解する					
4	消化器:胃、十二指腸、小腸(空腸、回腸)					十二指腸、小腸の構造・機能・特徴を理解する					
	消化器:小腸、大腸					小腸(空腸・回腸、大腸)の構造、機能、特徴を理解する					
	消化器:肝臓					肝臓の構造・機能を理解する					
7	泌尿生殖器概論					泌尿生殖器を理解する					
	中間試験										
9	泌尿器:腎臓					尿の生成を理解する					
	泌尿器:膀胱					膀胱の構造・機能を理解する					
11	泌尿器:膀胱、尿道					尿道の構造・機能を理解する。					
12	泌尿器:尿道					排尿反射を理解する					
	生殖器:男性					男性生殖器の構造、機能を理解する					
	生殖器:女性生殖器					女性生殖器の構造・機能・特徴を理解する					
15	期末試験										
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験40%、期末試験40%、確認試験20%で59%以下を不合格とする						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		西原 伸行									
日常生活動作学		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
日常生活を改善させるためには疾患・年齢・能力を理解し身体状況にあったADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法が必要になる。講義、実技が中心となる。 日常生活の改善が生活の質を向上させることを意識して学んでもらいたい。											
〔到達目標〕											
理学療法士として日常生活活動(ADL)の重要性を理解する。本講義としてはADL評価の評価項目・目的・評価方法学ぶ。日常生活活動障害に対する援助方法、ADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法のを講義および実技にて学習する。											
〔使用教材、参考文献等〕											
日常生活活動学・生活環境学第5版 医学書院 PT・OTビジュアルテキスト ADL 羊土社											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	ADL概論				日常生活活動(ADL)の概念・定義・範囲・QOLを理解し説明ができる。						
2	ICF				ICIDH/ICFの違いを理解し説明できる。						
3	日常生活活動の目的				日常生活活動評価の目的を理解し説明ができる。						
4	日常生活活動評価				理学療法の中のADL評価の位置づけを理解する。 ADL評価を行う目的と評価方法を説明できる。 急性期、回復期、維持期で行うADL評価の意義を説明できる。						
5	日常生活の評価の実際				Barthel Indexの評価を理解し実践できるようになる。						
6	日常生活の評価の実際				FIMの評価を理解し実践できるようになる。						
7	車椅子				車椅子の各部品名称、車椅子の種類を学び実践できるようになる。						
8	車いすの移動				車いすの自走、介助での操作方法を理解する。						
9	杖 補助具指導方法				杖・歩行器の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。						
10	松葉杖の種類・指導方法				松葉杖の種類を理解し患者の状態によって判断できるようになる。						
11	補助具・自助具				自助具の種類、説明使用方法を理解し説明できるようになる。						
12	自助具作成(ソックスエイド・ボディブラシ等)				現場で一般的に使用しているものを作成し、実用性があるか、修正が必要かを学ぶ。						
13	疾患別 脳血管障害(片麻痺)				障害像、評価とプログラム作成について理解する。基本的な介助方法について理解する。						
14	疾患別 脊髄損傷(四肢麻痺・対麻痺)				障害像、評価とプログラム作成について理解する。基本的な介助方法について理解する。						
15	在宅におけるADL指導				脳血管疾患の退院時におけるADL指導方法について理解する。						
〔評価について〕 試験は課題にて判断する。 提出期日、内容の深さにて判断					〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員		
授業科目名		吉岡 博英								
整形外科学		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
国立大学名誉教授で、大学病院での臨床経験もある医師が、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について教授する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。										
〔到達目標〕										
各整形外科疾患を、全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要、疫学、症状、診断、治療について理解できる。										
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。 また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	骨の構造、生理、生化学 骨の発生、成長、維持				骨の構造からその病態まで理解できる。					
2	関節の構造、生理、生化学				関節の構造からその病態まで理解できる。					
3	筋・神経の構造、生理、生化学				筋・神経の構造からその病態まで理解できる。					
4	感染性疾患				運動器に関わる感染性疾患の病態を理解できる。					
5	関節リウマチとその類似疾患				関節リウマチと類似疾患の病態を理解できる。					
6	変形性関節症とその類似疾患				変形性関節症と類似疾患の病態を理解できる。					
7	四肢循環障害				四肢の循環障害の病態を理解できる。					
8	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	骨系統疾患 先天性異常症候群				骨系統疾患と先天性疾患の病態を理解できる。					
10	代謝性骨疾患				代謝性骨疾患の病態を理解できる。					
11	良性骨腫瘍				骨・軟骨の良性腫瘍の病態を理解できる。					
12	悪性骨腫瘍				骨・軟骨の悪性腫瘍の病態を理解できる。					
13	神経疾患・筋疾患				運動器の神経・筋系疾患の病態を理解できる。					
14	末梢神経損傷				末梢神経疾患の病態を理解する。					
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業では自筆のノートを作成し、重要事項については復習すること。 各テストでは、その作成したノートを参照しての記述式試験を行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								山本 敏之			
理学療法検査・測定法				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士科の専任教員が、臨床に必要な検査・測定の概要や知識を教授する。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
臨床に必要な検査・測定の知識を身に付ける。 緊張感のある状況で検査・測定の選別を行なうことができるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕											
リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 メモ帳・筆記用具・白衣											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション、医療面接の概要					①検査、測定がなぜ理学療法士に必要なかを理解する。 ②医療面接の流れ、実施方法を理解する。					
2	バイタルチェック(意識レベル、視診・触診)					①JCS,GCSを理解する。 ②視診・触診をする目的や方法を理解する。					
3	MMT(肩関節・肘関節・前腕)					①各検査方法を理解する ②各検査に関与する筋肉の名称・走行・作用を理解する					
4	MMT(手関節・手指・足趾)					①各検査方法を理解する ②各検査に関与する筋肉の名称・走行・作用を理解する					
5	MMT実技試験					①第3,4回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
6	深部腱反射					①深部腱反射の仕組みを理解する ②検査の目的を理解する					
7	表在・病的反射					①表在・病的反射の仕組みを理解する ②検査の目的を理解する					
8	深部腱反射・表在・病的反射 実技試験					①第6,7回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
9	疼痛検査					①疼痛検査の内容や目的を理解する ②各検査スケールの違いや特徴を理解する					
10	知覚検査(表在)					①表在感覚検査の内容や目的を理解する ②検査結果の意義を理解する					
11	知覚検査(深部)					①深部感覚検査の内容や目的を理解する ②検査結果の意義を理解する					
12	整形外科疾患検査					①頸部疾患、上肢の疾患の整形外科検査の内容や陽性反応時の障害を理解する。					
13	整形外科疾患検査					①腰部疾患、下肢の疾患の整形外科検査の内容や陽性反応時の障害を理解する。					
14	知覚検査、整形外科疾患検査 実技試験					①第10～13回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
15	期末試験					①前期の内容の理解度を確認する					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は課題提出、筆記試験で行う。 課題提出全3回(30点)と期末試験(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。 課題提出に関しては期限厳守、遅れは減点、未提出は0点とする。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								山本 敏之			
理学療法検査・測定法実習Ⅰ				必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士科の専任教員が、臨床に必要な検査・測定の技術やリスク管理を教授する。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
臨床に必要な検査・測定の技術を身に付ける。 緊張感のある状況で検査・測定の選別を行なうことができるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕											
リハビリテーション基礎評価学 第2版 羊土社 メモ帳・筆記用具・白衣											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	医療面接					①医療面接の流れを理解する ②面接時の社会的態度を理解する					
2	バイタルチェック(意識レベル～血圧・脈拍測定)					①バイタルチェックを実施する ②流れを把握し、結果からどう解釈説明するかを理解する					
3	MMT(肩関節・肘関節・前腕)					①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する					
4	MMT(手関節・手指・足趾)					①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の判定、説明方法を理解する					
5	MMT実技試験					①第3,4回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
6	深部腱反射					①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の解釈、説明方法を理解する					
7	表在・病的反射					①各検査の手順・検査肢位を理解する ②検査結果の解釈、説明方法を理解する					
8	深部腱反射・表在・病的反射 実技試験					①第6,7回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
9	疼痛検査					①各スケールの用いて検査方法を理解する ②結果の解釈、説明方法を理解する					
10	知覚検査(表在)					①各検査方法を理解する ②結果の解釈、説明方法を理解する					
11	知覚検査(深部)					①各検査方法を理解する ②結果の解釈、説明方法を理解する					
12	整形外科疾患検査					①各検査方法を理解する ②結果の解釈、説明方法を理解する					
13	整形外科疾患検査					①各検査方法を理解する ②結果の解釈、説明方法を理解する					
14	知覚検査、整形外科疾患検査 実技試験					①第10～13回の理解度を明確にする ②理解不足の内容を理解する					
15	期末試験					①前期の内容の理解度を確認する					
〔評価について〕 評価は実技試験、筆記試験で行う。 実技試験(45点)と期末試験(55点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								高野 雄太			
病態運動学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法の対象となる疾病がもたらす機能障害について理解する。さらに運動障害や異常歩行などの動作障害について、その特徴および発生メカニズムの基本的知識を習得する。授業は臨床で理学療法士として従事している教員により行われ、実際の患者における機能障害や異常動作について動画なども多く取り入れ、より深く疾病の理解をしていく。											
〔到達目標〕											
・様々な疾患や障害によって生じる活動・動作制限を機能障害レベルでとらえることができる。 ・運動障害の原因となる病態について説明できる。 ・代表的な疾患の特徴的な運動障害についてその特徴を挙げて説明できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 病態運動学(医学書院)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	病態運動学の概要／分析対象と分析方法 小テスト					病態運動学と障害構造の関係性を説明できる。 病態運動学における様々な分析方法を理解できる。					
2	機能障害レベル① 体型・姿勢・アライメント 小テスト					体型・姿勢・アライメントの異常と機能障害への影響が理解できる。					
3	機能障害レベル② 筋力・関節運動 小テスト					筋力の異常と機能障害への影響が理解できる。 関節運動の異常と機能障害への影響が理解できる。					
4	機能障害レベル③ 感覚・知覚、筋緊張・反射 小テスト					感覚・知覚の異常と機能障害への影響が理解できる。 筋緊張・反射の異常と機能障害への影響が理解できる。					
5	機能障害レベル④ 随意運動・協調運動 小テスト					随意運動の異常と機能障害への影響が理解できる。 協調運動の異常と機能障害への影響が理解できる。					
6	機能障害レベル⑤ 姿勢制御・バランス機能 小テスト					姿勢制御・バランスの異常と機能障害への影響が理解できる。					
7	機能的制限レベル 基本動作 小テスト					基本動作の正常と異常を理解できる。 病態の存在による代償運動を理解できる。					
8	運動器疾患の病態と運動障害(上肢) 小テスト					上肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。					
9	運動器疾患の病態と運動障害(下肢) 小テスト					下肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。					
10	運動器疾患の病態と運動障害(下肢2) 小テスト					下肢における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。					
11	運動器疾患の病態と運動障害(脊柱) 小テスト					脊柱における代表的な疾患の病態と機能障害や運動障害の関連を理解できる。					
12	中枢神経系疾患の病態と運動障害(片麻痺) 小テスト					脳卒中による随意運動障害と片側性障害に基づく運動障害を理解できる。					
13	中枢神経系疾患の病態と運動障害(パーキンソン病) 小テスト					パーキンソン病の病態に基づく運動障害を理解できる。					
14	中枢神経系疾患の病態と運動障害(失調症) 小テスト					小脳障害に基づく協調運動障害が要因となる機能制限を理解できる。					
15	期末テスト解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 出席15% 小テスト45% 期末テスト40%					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名								西原 伸行		
				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数
生活環境論										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
私たちは何気なく日常生活遂行している。しかし、障害を持った方、疾病を有する方が円滑に日常生活を遂行するためには、様々な支援が必要になる場合がある。生活環境要因との関連性を理解し、対象者及び家族の身になり、理学療法士として何を支援すれば健やかな生活を送ることができるようになるのか、基本的な知識、技術を学習してもらう。										
〔到達目標〕										
1. 対象者、家族の生活環境の現状を調査し、問題点の抽出、生活向上のための提案ができるようになる。 2. 理学療法士として医学的理論と技術だけではなく、穏やかで円滑な生活遂行を支援するために多面的な生活環境要因との関連性を理解する。										
〔使用教材、参考文献等〕										
生活環境学テキスト(南江堂)										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	・オリエンテーション ・生活環境学とは					生活とは、環境とは、さらに生活環境向上に必要な法律を理解し説明できるようになる。				
2	・生活環境学の評価生活環境整備に関する法的制度1					社会保障制度について学び説明ができるようになる				
3	・生活環境学の評価生活環境整備に関する法的制度2					住生活基本法、介護保険を学び説明ができるようになる。				
4	・生活環境整備の評価					生活環境学時期の手順を理解し説明できるようになる。				
5	・環境整備の進め方(プロセス)					生活環境の問題点を抽出できるようになり、改善策を考えられるようになる。				
6	・生活環境整備の住宅改修					住宅の機能との関係を理解し心理的影響についても理解する。住宅改修の流れについて理解し説明ができる。				
7	・生活環境整備の基本 ① 段差・スペース・床材					段差の種類と大きさに応じた解消方法、杖、車椅子の通行・回転に必要なスペース、床材の種類と特長について学び説明ができる。				
8	・生活環境整備の基本 ② 手すり・建具					1. 生活環境整備における手すりの取り付けの考え方を理解する。 2. 生活環境整備における建具の考え方を理解する。				
9	・生活環境整備の基本 ③ 玄関・アプローチ					1. 道路(門)から玄関までのアプローチについて説明ができる。 2. 玄関周囲のスペースごとの用語や実数値の説明ができる。				
10	・生活環境整備の基本 ④ 廊下・階段					廊下・階段の標準的寸法について理解する。 福祉用具の活用のついて理解と具体的な方法について理解する。				
11	・生活環境整備に基本 ⑤ 浴室・脱衣所					トイレ・台所の環境整備の意義、目的、身体機能レベルに応じた環境整備を説明する。				
12	・生活環境整備の基本 ⑥ トイレ 台所					トイレ・台所の環境整備の意義、目的、身体機能レベルに応じた環境整備を説明する。				
13	・生活環境整備の基本 ⑦ 居間・寝室					居間と寝室に適した照明、床、スイッチ、特殊寝台等について説明ができる。				
14	・居間と寝室に適した照明、床、スイッチ、特殊寝台等について説明ができる。					生活を支える福祉・リハ関連用具 地域環境・公共交通				
15	家屋調査について					動画を使って具体的な家屋調査について学ぶ。				
〔評価について〕 試験による評価は実施しない。 課題にて評価する。					〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース			理学療法士科Ⅰ部			担当教員				
授業科目名			学年	2	開講区分	前期	須藤 久也			
障がい者スポーツ論			必修・選択	必修	授業形態	講義実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 アダプテッド体育・スポーツ学の修士号を持つ専任教員により、理学療法士の専門性を活かした障がい者スポーツ活動支援の理論と方法論について学ぶ。										
〔到達目標〕 ・障がい者スポーツの歴史と意義、スポーツによる身体的・心理的・社会的効果を理解し、説明することができる。 ・障がい者を取り巻く環境や制度、福祉的政策について理解し、説明することができる。 ・実際の障がい者スポーツ体験を通じて、アダプテッド・スポーツの方法論を習得する。										
〔使用教材、参考文献等〕 ・配布資料(Teamsにアップロード)										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1 (4/7)	オリエンテーション 障がい者スポーツ体験				障がい者スポーツを体験し、ルールを理解することができる。					
2 (4/14)	障がい者スポーツの意義と理念				障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。					
3 (4/21)	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質				スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。					
4 (4/28)	各障がいの理解(身体障害)①				各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で活かせる知識を身につける。					
5 (5/12)	各障がいの理解(身体障害)②				各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で活かせる知識を身につける。					
6 (5/19)	各障がいの理解(知的障害・発達障害)				各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で活かせる知識を身につける。					
7 (5/26)	各障がいの理解(精神障害)				各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で活かせる知識を身につける。					
8 (6/2)	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①				障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむための方法論を学ぶ。					
9 (6/9)	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②				障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむための方法論を学ぶ。					
10 (6/16)	安全管理				スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。					
11 (6/23)	コミュニケーションスキルの基礎 グループ発表①				障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルを学ぶ。					
12 (6/30)	全国障害者スポーツ大会の概要 グループ発表②				全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学ぶ。					
13 (7/7)	障がい者スポーツに関する諸施策 グループ発表③				わが国の障がい者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策について学ぶ。					
14 (7/14)	障がいのある人との交流 特別講演①				スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。					
15 (7/14)	障がい者スポーツ推進の取り組み 初級障がい者スポーツ指導員制度 特別講演②				資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関わられるように、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。					
〔評価について〕 出席点・授業への取り組み姿勢(50点)とグループワーク・発表(50点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 ・実技を行うため動きやすい服装で参加すること(Tシャツ、ハーフパンツなど) ・柔道場またはNASスポーツクラブで実施する					

令和4年度シラバス

授業のタイトル(科目名) 運動療法学		授業の種類 講義		授業担当者 安田和弘	
授業の回数 15		時間数 30		時期 昼間部2年生(前期)	
				必修・選択 必修	
〔授業の目的・ねらい〕 金曜 1・2 限連続実施 (日程・時間変更の場合あり要注意)					
- 理学療法士において重要な部分を占める運動療法の定義・目的・対象・種類等を学習する。 - 解剖学、生理学、運動学の知識を再確認する。					
〔授業全体の内容の概要〕					
1限目に講義、2限目に実技の流れで実施する。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕					
コマ数				担当教員	
1	オリエンテーション 運動療法概論・リスク管理				担当: 安田
2	関節可動域訓練 総論				担当: 安田
3	関節可動域制限に対する運動療法 1 上肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
4	関節可動域制限に対する運動療法 2 脊柱の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
5	関節可動域制限に対する運動療法 3 下肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
6	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 1				担当: 安田
7	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 2				担当: 安田
8	協調性低下に対する運動療法				担当: 安田
9	姿勢アライメントに対する運動療法 1				担当: 安田
10	姿勢アライメントに対する運動療法 2				担当: 安田
11	バランス能力低下に対する運動療法				担当: 安田
12	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法				担当: 安田
13	加齢による機能障害に対する運動療法				担当: 安田
14	全身持久力低下に対する運動療法				担当: 安田
15	期末テスト				担当: 安田
〔備考〕 スケジュールは変更の場合あり。 各自、動きやすい服装で望むこと。					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
- 授業時配布資料 - 南光堂 運動療法学テキスト			- 出席 - 小テスト - 定期テスト(期末テスト)		

令和4年度シラバス

授業のタイトル(科目名) 運動療法学実習 I		授業の種類 実技		授業担当者 安田和弘	
授業の回数 15		時間数 30		時期 昼間部2年生(前期)	
				必修・選択 必修	
〔授業の目的・ねらい〕 金曜 1・2 限連続実施 (日程・時間変更の場合あり要注意)					
- 理学療法士において重要な部分を占める運動療法の定義・目的・対象・種類等を学習する。 - 解剖学、生理学、運動学の知識を再確認する。					
〔授業全体の内容の概要〕					
1限目に講義、2限目に実技の流れで実施する。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕					
コマ数				担当教員	
1	オリエンテーション 運動療法概論・リスク管理				担当: 安田
2	関節可動域訓練 総論				担当: 安田
3	関節可動域制限に対する運動療法 1 上肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
4	関節可動域制限に対する運動療法 2 脊柱の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
5	関節可動域制限に対する運動療法 3 下肢関節の理解とROMエクササイズ・ストレッチング ※実技のモビライゼーションは省く				担当: 安田
6	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 1				担当: 安田
7	筋力・筋持久力低下に対する運動療法 2				担当: 安田
8	協調性低下に対する運動療法				担当: 安田
9	姿勢アライメントに対する運動療法 1				担当: 安田
10	姿勢アライメントに対する運動療法 2				担当: 安田
11	バランス能力低下に対する運動療法				担当: 安田
12	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法				担当: 安田
13	加齢による機能障害に対する運動療法				担当: 安田
14	全身持久力低下に対する運動療法				担当: 安田
15	期末テスト				担当: 安田
〔備考〕 スケジュールは変更の場合あり。 各自、動きやすい服装で望むこと。					
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
- 授業時配布資料 - 南光堂 運動療法学テキスト			- 出席 - 小テスト - 定期テスト(期末テスト)		

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年 2	開講区分	前期	担当教員 渡邊 香緒里			
授業科目名 栄養学					必修・選択	必修	授業形態	講義
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
スポーツ栄養士としてスポーツ現場でトップアスリートに対してサポートを行ってきている教員が、現場での状況を交えながらスポーツ選手に必要な栄養や食事に関する授業を行う。								
〔到達目標〕 栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。栄養学に対して興味を持ち、正しい情報を活用できるようになる。								
〔使用教材、参考文献等〕 配布資料								
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・スポーツ現場におけるスポーツ栄養士の活動内容		現場で公認スポーツ栄養士がどのような活動をしているか知る。					
2	食事の基本形		食事の基本形について理解できる					
3	増量・減量時の栄養・食事について		増量・減量時の栄養・食事について理解できる。					
4	暑熱環境における栄養・食事について		暑熱環境における栄養・食事について理解できる。					
5	血液検査と栄養・食事について		血液検査と栄養・食事について理解ができる。					
6	試合時の栄養・食事について		試合時の栄養・食事について理解できる。					
7	遠征時の栄養・食事について		遠征時の栄養・食事について理解できる。					
8	期末テスト		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は期末テスト(100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 紹介するケースを自分の立場に置き換えて積極的にイメージすること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士学科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								村山 俊彦			
薬理学				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 薬剤師免許保有者による授業である。薬理学は身体的、精神的疾患の治療・改善に用いられる薬物の作用、副作用などを講義する。特に理学療法士の役割が重要な疾患・障害の治療薬やスポーツ関連の薬物の理解を図る。											
〔到達目標〕 1)薬理学の基礎知識を学び、正しく理解できる。2)種々の疾患・障害における薬の作用・副作用・有害事象を把握できる。3)理学療法士として臨床現場で学んだ知識を活用して、治療・援助計画を立てることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 授業資料を公表し、適宜にホワイトボード板書で理解を深める。						〔準備学習・時間外学習〕 事前に資料などを熟読し、薬理学関連用語を予習しておくこと。生理学・病理学や生化学的な事象に関しても理解度を深めるなど、広範囲に関連付けて勉学・復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	くすりとは何か、薬理学とは何か					くすり・薬理学の概念を理解する					
2	くすりの作用機序、動態と薬効、副作用、薬物相互作用					くすり・薬理学に関する基礎知識を理解する					
3	神経の構造、機能、分類と末梢神経系の機能					末梢神経系、特に交感神経・副交感神経・知覚神経・運動神経に関する疾患と薬物療法を理解する					
4	中枢神経作用薬—鎮静催眠薬、向精神薬、神経変性疾患治療薬、運動・スポーツの中枢作用など—					中枢神経系の各種疾患とその薬物療法を理解する					
5	各器官・臓器に関する疾患とその薬物療法(I)					循環器・呼吸器・消化器・泌尿器などの疾患とその薬物療法を理解する					
6	各器官・臓器に関する疾患とその薬物療法(II)					感覚器・内分泌代謝系・運動器系などの疾患とその薬物療法を理解する					
7	炎症・痛み、がん・感染症に関連した疾患・障害とその薬物療法					炎症と痛みを伴う各種疾患や運動・スポーツ障害とその薬物療法を理解する					
8	薬理学的知識の確認(期末試験)と解説					国家試験レベルの問題を解き理学療法士として必要な薬理学的知識を習得する					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛 先生			
内科学				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
リハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)による内科学では、一般内科学の各疾患別各論について学習し、理解する(肝胆膵疾患、血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患・膠原病と類縁疾患・免疫不全症、感染症)それぞれの疾患に対する診断と治療方法を学習してもらう。理学療法士になるうえで罹患の状態はしっかりと学んでほしい。											
〔到達目標〕											
内科疾患の主要なものについて、簡潔に説明ができる。余裕があれば、巻末のセルフアセスメントも実施する。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
内科学(第3版第6刷:2019. 1. 1) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 医学書院						教科書を音読できるようにする。個別の項目を丸暗記しようとせず、いくつかの項目を関連付けた文章を作成して理解し、説明するようにする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	8. 血液・造血器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
2	血液・造血器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
3	9. 代謝性疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
4	代謝性疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
5	10. 内分泌疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
6	内分泌疾患(2) : 各論(1)					各疾患について、簡潔に説明できる					
7	内分泌疾患(3) : 各論(2)					各疾患について、簡潔に説明できる					
8	中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	11. 腎・泌尿器疾患(1) : 総論					解剖・生理を医学的観点でまとめる					
10	腎・泌尿器疾患(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
11	12. アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症(1) : 総論					免疫機構・生理を医学的観点でまとめる					
12	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症(2) : 各論					各疾患について、簡潔に説明できる					
13	13. 感染症(1) : 総論					感染症病原体・予防対策を医学的観点でまとめる					
14	感染症(2) : 各論(1)					各疾患について、簡潔に説明できる					
15	期末テスト解説					テストにより効果測定を行い、ROM-Tを把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科 I 部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 吉岡 博英 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
整形外科学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
整形外科医師による、高頻度に遭遇する整形外科疾患の概要を理解し、単に臨床上の基礎知識にとどまらず幅広く疾患を俯瞰して診ることが出来るよう運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。学生にはスポーツ医学の視点も含め興味関心を持って望んで欲しい。											
〔到達目標〕											
各整形外科疾患を、全身性疾患から胸郭より上位の各疾患について、概要、疫学、症状、診断、治療について理解できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準 整形外科学:医学書院						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	胸椎・腰椎(概略—腰椎変性疾患)					胸椎や腰椎の椎間板ヘルニア始め運動器障害における疾患を理解できる。					
2	腰椎(急性腰痛発作—脊髄腫瘍)					整形外科的腰椎疾患から原発性腫瘍と転移性腫瘍の病態まで把握できる。					
3	股関節(概略—ペルテス病)					小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。					
4	股関節(大腿骨頭すべり症—骨盤輪の疾患)					小児から成人に至る股関節の主な疾患を理解できる。					
5	股関節(股関節の手術)、膝関節(概略—発育期の膝関節障害)					股関節手術・手術後の状態及び膝関節に罹る発育段階にける傷害を理解できる。					
6	膝関節(半月板損傷—膝周囲の関節包・滑液胞の異常)					膝関節における損傷や異常について理解が出来る。					
7	足関節と足趾					足関節と足趾に関わる疾患を理解できる。					
8	中間確認テスト解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	外傷学:外傷総論					スポーツ外傷・障害が部位の解剖学的構造と運動学的メカニズムについて理解できる。					
10	外傷総論、軟部組織損傷					機械的外力などにより、結合組織が損傷を受けた状態を理解できる。					
11	骨折・脱臼(概略—胸郭の外傷)					骨折・脱臼(概略—胸郭の外傷)の病態について理解できる。					
12	骨折・脱臼(骨盤の骨折—膝関節部の骨折と脱臼)					骨盤の骨折から膝関節部の骨折と脱臼について理解できる。					
13	骨折・脱臼(下腿骨骨折—足部の骨折と脱臼)					下腿骨骨折—足部の骨折と脱臼について理解できる。					
14	脊椎・脊髄損傷(脊髄損傷)					代表的な末梢神経損傷と整形外科を理解する。					
15	期末テスト解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛 先生			
神経内科学				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
リハビリテーション病院で現役医師(脳神経外科医)による神経内科学では、リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を中心にその病態と診断を理解し理学療法アプローチを実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。											
〔到達目標〕											
理学療法士に求められる神経内科の疾患・罹患の状態・診断検査～所見の取り方及び評価について客観的に理解が出来ている。更に理学療法的治療アプローチに関連付けることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院						専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション					前半の振り返りと後期における授業概要を理解できる。					
2	中枢神経系・末梢神経系の解剖と機能					前期で学んだ中枢神経における内容をグループ学習でお互いが確認できる。					
3	高次脳機能障害(注意障害)					注意障害の概念・検査法とリハビリテーションにおける対応法を理解できる。					
4	高次脳機能障害(遂行機能障害)					遂行機能障害の概念・検査法とリハビリテーションにおける対応法を理解できる。					
5	構音障害					構音のメカニズムと診断・治療手段を理解できる。					
6	嚥下障害					嚥下障害のメカニズムと診断・治療手段を理解できる。					
7	脳神経外科領域の疾患					脳浮腫・脳ヘルニア等脳神経外科領域の疾患を理解できる。					
8	脳血管障害					脳血管障害の症状と診断治療を理解できる。					
9	認知症					認知症の識別診断と治療を理解できる。理学療法との関連を理解できる。					
10	脳腫瘍					脳腫瘍の病態とメカニズム・画像診断を理解できる。					
11	外傷性脳脳損傷・脊髄損傷・脊髄小脳変性症					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
12	パーキンソン病・ギランバレー症候群末梢神経障害					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
13	進行性筋ジストロフィー脳性麻痺・ダウン症					各症状のメカニズムと脳神経疾患を理解する。					
14	総復習					神経内科における各種の疾患をグループワークで総復習できる。					
15	期末テスト解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行い、評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 高野 雄太 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
関節の運動学											
〔授業の学習内容と心構え〕											
臨床現場で理学療法を行っている理学療法士が、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。理学療法の実務経験のある教員が、基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 PT・OTのための運動学テキスト						〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。					
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)										
1	手関節の構造と機能 1					手・手関節の機能と運動・肢位を理解し、説明できる。					
2	手関節の構造と機能 2					手関節周囲の筋の働き、変形・末梢神経麻痺の症状について理解し、説明できる。					
3	頭部・顔面の機能と構造					頭部の骨・関節・筋の働き(咀嚼筋、表情筋)について理解し、説明できる。					
4	下肢帯と自由下肢の構造と機能					下肢の骨・関節の構造、骨盤の構造について理解し、説明できる。					
5	股関節の機能と構造 1					骨盤・大腿骨の形状、股関節周囲の靱帯の名称と働きについて理解し、説明できる。					
6	股関節の機能と構造 2					股関節周囲の筋の働きについて理解し、説明できる。					
7	膝関節の構造と機能 1					膝関節の構造、アライメント、運動の特徴について理解し、説明できる。					
8	前半の振り返り・質問受け付け 中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	膝関節の構造と機能 2					膝関節周囲の靱帯、半月板の構造と機能について理解し、説明できる。					
10	足関節・足部の構造と機能 1					足関節・足部を構成する関節の構造と運動について理解し、説明できる。					
11	足関節・足部の構造と機能 2					足のアーチの構造と機能、足関節周囲の筋の働き、足の変形について理解し、説明できる。					
12	歩行概論1					歩行周期の名称、歩行に関する専門用語を理解し、説明できる。					
13	歩行概論2					歩行時の各関節の動き、重心の偏移、床反力について理解し、説明できる。					
14	運動学習					運動学習に関わる基本用語、基本的な考え方を理解し、説明できる。					
15	総括					後期に学習した運動学の内容のまとめを通じて、後期の内容の全体像を理解し、説明できる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
理学療法検査・測定法											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
医療機関・高齢者施設での臨床現場において実習学生に対して検査測定指導を行ってきた専任教員が、病気から派生した障害に対して理学療法アプローチをかける上において、検査・測定は必須項目となる。本科では座学で学んだ内容を実践と通してその目的や意義の大切さ体得し、理学療法士として身構え気構え心構えを身につけてもらいたい。											
〔到達目標〕											
1. 理学療法における基本的な検査・測定の目的や意義を理解する。 2. 対象者に対して、実施する検査の目的や手順を説明できる。 3. 与えられた障がい像から必要な検査が選択できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 新・徒手筋力検査法 第8版 理学療法評価法 改訂5版 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂						〔準備学習・時間外学習〕 生理学・解剖学を叙行前に復習する。 講義での実技時間は短い。各自教室をとり自主練習を実施すること。 各疾患について事前学習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	前期の総括・まとめと後期のゴール設定					前期ので習得した講義に対する補完と後期の授業概要の確認が理解できる。					
2	SIAS中枢疾患の評価とは					SIASに対する中枢疾患と評価方法を理解できる。					
3	動作観察評価 分析評価① 寝返り・起き上がり					寝返り動作・起き上がり動作評価の意義・ポイント・方法が述べられる。					
4	動作観察評価 分析評価② 立ち上がり					立ち上がり動作評価の意義・ポイント・方法が述べられる。					
5	姿勢バランス					姿勢バランスのメカニズムを理解しバランス検査の意義、内乱・外乱の検査方法が述べられるようになる。					
6	運動耐容能の評価					運動耐容能の意義、必要性、検査項目を理解し述べられるようになる。					
7	まとめ					SIAS、姿勢バランス、運動耐容能の講義に対する補完と実技の修正をし正確な検査測定を理解できる。					
8	中間確認試験					筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。					
9	まとめ 理学療法評価項目を挙げる。(疾患を提示)					今まで学んだ講義の中から検査項目を選択しなぜ必要なのか、その意義の説明ができる。					
10	高齢者の評価					高齢者の特徴を理解し、高齢者に対する各種検査項目を述べられるようになる。					
11	パーキンソン病・パーキンソン症候群の評価					パーキンソンのメカニズムを理解し 検査・目的・方法が述べられるようになる。					
12	脊髄損傷					脊髄損傷に対するメカニズムを理解し各種検査項目・目的・方法が述べられるようになる。					
13	脳神経の見方					脳に出入りする末梢神経を理解しその働きを理解し検査方法が述べられるようになる。					
14	呼吸器疾患の評価					呼吸器疾患のメカニズムを理解し呼吸機能の検査・目的・方法が述べられるようになる。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 配布資料に重要項目は書き込むこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
理学療法検査・測定法実習Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
医療機関・高齢者施設での臨床現場において実習学生に対して検査測定指導を行ってきた専任教員が担当する。臨床現場においては対象者の病態・知識は当然ではある。病気から派生した障害に対して理学療法アプローチをかける上において、検査・測定は必須項目となる。本科では座学で学んだ内容を実践を通してその目的や意義の大切さ体得し、理学療法士として身構え気構え心構えを身につけてもらいたい。											
〔到達目標〕											
1. 理学療法における基本的な検査・測定の目的や意義を理解する。 2. 対象者に対して、実施する検査の目的や手順を説明できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価法 改訂5版 病気がみえる『脳・神経』 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂						〔準備学習・時間外学習〕 生理学・解剖学を叙行前に復習する。 講義での実技時間は短い。各自教室をとり自主練習を実施すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	復習 (筋緊張・Brunnstrom test)					前期ので習得した講義に対する補完と実技の修正をし正確な検査測定ができるようになる。					
2	SIAS中枢疾患の評価					SIASに対する意義・方法が実践できるようになる。					
3	動作観察① 寝返り					寝返り動作・起き上がり動作評価の意義・ポイント・方法を実践できる。					
4	動作観察② 立ち上がり					立ち上がり動作評価の意義・ポイント・方法が述べられるよう					
5	姿勢バランス					姿勢バランスのメカニズムを理解しバランス検査の意義、内乱・外乱の検査方法が述べられるようになる。					
6	運動耐容能の評価					運動耐容能の意義、必要性、検査項目を理解し述べられるようになる。					
7	復習 (SIAS)					SIAS、姿勢バランス、運動耐容能の講義に対する補完と実技の修正をし正確な検査測定ができるようになる。					
8	前半科目のそれぞれの手技に対する振り返りと確認試験・解答解説及び後半に向けたオリエンテーション					筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。					
9	臨床における理学療法評価の実際					今まで学んだ講義の中から検査項目を選択しなぜ必要なのか、その意義の説明ができる。					
10	高齢者の評価					高齢者の特徴を理解し、高齢者に対する各種検査項目を述べられるようになる。					
11	パーキンソン病・パーキンソン症候群の評価					パーキンソンのメカニズムを理解し 検査・目的・方法が述べられるようになる。					
12	脊髄損傷					脊髄損傷に対するメカニズムを理解し各種検査項目・目的・方法が述べられるようになる。					
13	高次脳検査					高次脳障害のメカニズムを理解し検査方法が述べられるようになる。					
14	呼吸器疾患の評価					呼吸器疾患のメカニズムを理解し呼吸機能の検査・目的・方法が述べられるようになる。					
15	心電図の見方 定期試験 解答解説と総振り返り					心電図について理解し正常・異常の所見が述べられるようになる。その後定期試験を行いこの科目の総振り返りを行う。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 内堀 昭宜 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
動作分析法											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として大学院で運動機能系修士を学び、臨床現場で10年以上に亘る経験と実習指導にも長けている理学療法士が、動作分析に必要な観察方法から分析の手法を教授する。正常の動作を学習する寝返り、起き上がり、立ち上がり(スクワット)、歩行動作分析の手法 筋活動(EMG)、3次元動作解析装置から臨床と動作分析について理解して実習につなげて欲しい。											
〔到達目標〕 理学療法における動作分析とは何かを理解できる 各動作分析法を理解できる											
〔使用教材、参考文献等〕 観察による歩行分析 医学書院						〔準備学習・時間外学習〕 授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)										
1	オリエンテーション 動作分析法とは？					動作とはなにかを理解できる					
2	動作観察と分析の違い、動作分析法の概略					動作観察と分析の違いが理解できる					
3	動作分析の方法					動作分析の手順を理解できる					
4	機器をつかって EMG、3次元動作解析装置、映像(アプリなど) 動作解析機器の使用法を理解できる										
5	正常動作と観察1					動画を使って正常動作を理解できる					
6	寝返り					寝返り動作の動きを理解できる					
7	動作分析のポイント1					動作に共通した異常を理解できる					
8	中間確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	正常動作と観察3 立ち上がり					正常な動作での立ち上がりを理解できる					
10	動作分析のポイント3 立ち上がり					異常な動作での立ち上がりを理解できる					
11	正常動作と観察4 スクワット、片脚立位					正常な状態でのスクワット・片脚立位を理解できる					
12	動作分析のポイント4 スクワット、片脚立位					異常な状態でのスクワット・片脚立位を理解できる					
13	正常動作と観察5 歩行					正常な状態の歩行における観察と分析を理解できる					
14	動作分析のポイント6 歩行					異常な状態の歩行における観察と分析を理解できる					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 安田 和弘 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
運動療法学											
〔授業の学習内容と心構え〕											
臨床で運動療法の経験に精通した理学療法士の講師が、病気やケガから派生した症状に対して運動療法的アプローチを行う。そして本科目を履修することで臨床現場で活用することを目的とし、基本原理と注意点、使用方法を理解できるようになる。											
〔到達目標〕											
1)臨床に必要な、動作・検査・治療の基本である運動学の理解を復習する。 2)解剖学・生理学・運動学の理解に基づき、運動療法を考えられるようにしていく。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
・ 授業時配布資料 ・ シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト 改定第2版						運動療法の基本原理を理解するために、1学年で学習した生理学・病理学の基礎知識が必要となる。実技にて実験した際にはまとめ作業などが必要となる。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション ～運動療法とはなにか～ 前期で学んだことの復習					運動療法における概念を理解できる					
2	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法					目的に合わせた運動療法を理解できる					
3	起居動作の運動療法アプローチ					起居動作の運動療法的アプローチを理解できる					
4	上肢 筋の起始停止・支配神経:上肢					上肢における筋の起始停止・支配神経を理解できる					
5	体幹 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢					体幹 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢を理解できる					
6	股関節 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢					股関節 筋における起始停止・支配神経:骨盤・下肢を理解できる					
7	膝関節 筋の起始停止・支配神経:下肢					膝関節 筋の起始停止・支配神経:下肢を理解できる					
8	前半の復習 中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	足関節 筋の起始停止・支配神経:下肢					足関節 筋の起始停止・支配神経:下肢を理解できる					
10	姿勢の運動学					姿勢・体位(正常・異常)の違いを理解できる					
11	起居動作の運動学					起居動作における動作分析と考察ができる					
12	立ち上がり・立位の運動学					立ち上がり・立位の動作分析と考察ができる					
13	歩行の運動学 筋力増強運動					筋力増強運動アプローチ法を理解できる					
14	歩行の運動学					バランスを保つ基本動作アプローチを理解できる					
15	総括					後期で学習した内容の総まとめを通じて、学習した物理療法の概要を説明できる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 安田 和弘 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
運動療法学実習Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕									
臨床で運動療法の経験に精通した理学療法士の講師が、病気やケガから派生した症状に対して運動療法的アプローチを行う。そして本科目を履修することで臨床現場で活用することを目的とし、基本原理と注意点、使用方法を理解できるようになる。									
〔到達目標〕									
1)臨床に必要な、動作・検査・治療の基本である運動学の理解を復習する。 2)解剖学・生理学・運動学の理解に基づき、運動療法を考えられるようにしていく。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
・ 授業時配布資料 ・ シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト 改定第2版					運動療法の基本原理を理解するために、1学年で学習した生理学・病理学の基礎知識が必要となる。実技にて実験した際にはまとめ作業などが必要となる。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション ～運動療法とはなにか～ 前期で学んだことの復習				運動療法における概念を理解できる				
2	基本動作能力・歩行能力獲得のための運動療法				目的に合わせた運動療法を実践できる				
3	起居動作の運動療法アプローチ				起居動作の運動療法的アプローチを実践できる				
4	上肢 筋の起始停止・支配神経:上肢				上肢における筋の起始停止・支配神経を実践できる				
5	体幹 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢				体幹 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢を実践できる				
6	股関節 筋の起始停止・支配神経:骨盤・下肢				股関節 筋における起始停止・支配神経:骨盤・下肢を実践できる				
7	膝関節 筋の起始停止・支配神経:下肢				膝関節 筋の起始停止・支配神経:下肢を実践できる				
8	前半の復習 中間確認テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	足関節 筋の起始停止・支配神経:下肢				足関節 筋の起始停止・支配神経:下肢を実践できる				
10	姿勢の運動学				姿勢・体位(正常・異常)の違いを実践できる				
11	起居動作の運動学				起居動作における動作分析と実践ができる				
12	立ち上がり・立位の運動学				立ち上がり・立位の動作分析と実践ができる				
13	歩行の運動学 筋力増強運動				筋力増強運動アプローチ法を実践できる				
14	歩行の運動学				バランスを保つ基本動作アプローチを実践できる				
15	総括				後期で学習した内容の総まとめを通じて、学習した物理療法の概要を説明できる。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 中島 圭吾 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
物理療法学実習									
〔授業の学習内容と心構え〕 整形外科クリニックでの勤務経験とアスレティックトレーナー公認資格を有し多くのスポーツ現場で活動している理学療法士の専任教員が実際の理学療法の現場でおこなわれる各種物理療法機器を実際に使用できるようになるために、基本原理と注意点、使用方法を説明し、実践練習をおこなう。前期に学んだ知識を元に、実際に実験もおこなう。安全に留意して、実技に積極的に参加する姿勢が求められる。									
〔到達目標〕 ・各種物理療法機器に関する基本的原理、禁忌と適応を理解し、説明できるようになる。 ・実技において使用感、被使用感を体感し、他者に説明できるようになる。 ・操作練習を通じて、実施上の注意点を理解し、病院実習前に自主練習できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 ・「物理療法学」(医学書院) ・配布資料					〔準備学習・時間外学習〕 物理療法の基本原理を理解するために、1学年で学習した生理学・病理学の基礎知識が必要となる。実技にて実験した際にはまとめ作業などが必要となる。				
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)								
1	電気療法 1 基礎 / TES・NMESとTENS			電気療法の基本原理を理解し、説明できる。 NMESとTENSの目的に違いを説明できる。					
2	電気療法 2 低周波療法実技			前回の学習を元に、実際に適用し、操作方法を体験する。禁忌と適応を説明することができる。					
3	電気療法 3 FES、干渉波			前回までに学習した電気療法のその他のものの基本原理、目的、禁忌と適応を理解し、説明できる。					
4	牽引療法			頸椎・腰椎の牽引の目的を理解し、説明できる。 操作方法・設定の注意点を理解し、説明できる。					
5	バイオフィードバック			バイオフィードバックの種類、原理、目的を理解し、説明できる。					
6	光線療法			光線療法の原理を理解し、説明できる。逆二乗の法則、ランバートの余弦則を理解し、説明できる。					
7	リスク管理について			物理療法を用いる際、どんな事故が発生しうるか、その予防策を理解し、説明できる。					
8	前半の復習 中間確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	超音波療法 1			超音波療法の原理・使用方法の概要を理解し、説明できる。					
10	超音波療法 2			超音波機器の設定方法、設定値の意味を理解し、説明できる。禁忌と適応を理解し、説明できる。					
11	物理療法を用いた実験について文献抄読と実験及び発表課題通知			基礎的な物理療法に関する学術論文を読み、簡単な論文を独自に読むことができるようになる。					
12	物理療法実験1 実験・発表準備			グループ毎に実験内容を相談・決定する。操作方法を確認し、実験準備をおこなう。					
13	物理療法実験2 実験			グループ毎に実験を実施し、計測をおこなう。					
14	物理療法実験3 実験結果のまとめ			実験結果のまとめ、発表準備をおこなう。					
15	発表会			各グループ毎に発表・フィードバックをおこなう。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と発表会後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 岩本 大志 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
義肢装具学演習											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科の中でも骨折や切断に対する臨床現場を持つ理学療法士の講師による義肢装具を習得する授業を行なう。 毎年国家試験には数問出題され、また、臨床の場において、装具は必ず必要になります。しっかり復習して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕 1:装具の目的について理解できる。 2:疾患別装具の適合について理解できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 義肢装具学テキスト(南江堂)						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)										
1	授業オリエンテーション 装具総論					装具の概念を理解できる					
2	装具を理解するための運動学 装具の役割 生体力学 運動力学					運動学を通して装具の役割を理解できる					
3	装具に使用される部品 名称、継手、ストラップ					装具に使用される部品、名称、継手、ストラップを理解できる					
4	長下肢装具					長下肢装具の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
5	短下肢装具					短下肢装具の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
6	靴型装具					靴型装具の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
7	下肢装具チェックアウト					下肢の装具について糸通り説明できるようになる					
8	中間確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	免荷装具・特別股装具					免荷装具・特別股装具の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
10	上肢装具1					上肢装具1の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
11	上肢装具2					上肢装具2の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
12	上肢装具チェックアウト					上肢の装具について糸通り説明できるようになる					
13	頸部・体幹装具1					体幹装具1の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
14	頸部・体幹装具2とチェックアウト					体幹装具2の各部名称や機能を実際の装具で確認できる					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	後期	担当教員 西原 伸行 先生			
授業科目名		必修/ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
日常生活活動学実習									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として30年以上に亘り医療機関臨床現場でリハビリ場面を経験し、多くの対象者のQOLを視野に入れた経験のある専任教員が、リハビリに必要な視点の一つとしてQOL向上に向けたリハビリと基本的な動作を理解し 疾患に分けた日常生活リハビリの介助方法・指導方法を動画、実技を修得してもらう。									
〔到達目標〕 疾患の特徴を理解し一人一人の対象者の能力に適した介助方法、指導方法を実践できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 ADL 羊土社 新版 日常生活活動 医歯薬出版 配布資料					〔準備学習・時間外学習〕 日常生活活動は、対象者だけのものではなく自分たちも自然に行っていることである。常にどのようにすれば上手いくのかを考えること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	日常生活動作評価・QOL評価の時期・問診・実施事項			評価の目的・時期・問診の方法を理解し実践できる。					
2	基本的動観察①(寝返り、起き上がり・長座位)			対象者の持ち方起き上がり、立ち上がりの基本を理解し実践できる。					
3	基本的動作の観察②(床からの起き上がり・座位立ち上がり)			介助の方法、指導方法を理解し説明し実践できるようになる。					
4	基本的動作の介助方法 ③(端座位・車いす座位・立位)			基本的な姿勢保持 介助方法を理解し説明し実践できるようになる。					
5	疾患別 動作介助方法・指導方法 認知症			病態を理解し、認知症の方のコミュニケーションの取り方・ADLの指導方法・予防について学び実践できるようになる。					
6	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患①			病態を理解し、脳血管障害の方の寝返り、起き上がり介助方法・動作の指導方法を学び実践できるようになる。					
7	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患②			端座位・立ち上がり、移乗、床から立ち上がり介助方法・動作の指導方法について実践できるようになる。					
8	確認試験 解答解説 後半に向けたオリエンテーション			筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。					
9	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷①			病態を理解し、脊髄損傷の方の寝返り、起き上がりの介助方法、指導方法を学び実践できる。					
10	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷②			脊髄損傷の方の移乗動作 介助方法・自立するための指導法を学び実践できるようになる。					
11	疾患別 動作介助方法・指導方法 関節リウマチ			病態を理解し、関節リウマチの方の動作介助および指導方法・生活指導を学び実践できる。					
12	疾患別 動作介助方法・指導方法 人工関節置換術			病態を理解し、変形性股関節症・膝関節症の方の動作介助および日常生活注意点の指導法を学び実践できる。					
13	疾患別 動作介助方法・生活指導方 呼吸器疾患			病態を理解し、呼吸器疾患の生活動作、姿勢、歩行について指導方法を学び実践できる。					
14	疾患別 動作介助方法・指導方法 神経疾患			ALS、ギランバレー症候群、脊髄小脳変性症疾患の方の病態を理解し、補助具、寝返り・起き上がり、生活指導方法を学び実践できる。					
15	摂食・嚥下障害 総論 実技 定期試験			嚥下障害を理解し、護食、とろみ食実施体験することで作成方法、介助方法を実践する。					
〔評価について〕 確認試験・期末試験とする。 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 配布資料に重要項目は書き込むこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員 長岡 洋平 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
地域リハビリテーション論									
〔授業の学習内容と心構え〕									
臨床経験豊富な理学療法士科が卒業して臨床経験を経た後に、地域で活躍できるよう心構えを構築することを目的に授業構成をしている。各回の授業内容は、授業を担当する教員が全て経験してきたこと、さらに現在も継続して携わっている事業であり、これらを題材に今後社会に要とされる理学療法士の役割と専門性を一緒に考えていきたい。									
〔到達目標〕									
様々な疾患や障害によって生じる活動・動作制限を機能障害レベルでとらえる力を身に付ける。 運動障害の原因となる病態について説明できる。 代表的な疾患の特徴的な運動障害についてその特徴を挙げて説明できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 ・ 授業時配布資料 標準理学療法学 地域理学療法学 第3版(医学書院)					〔準備学習・時間外学習〕 普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	地域包括ケアシステムの理解				人口動態と現代社会の問題について学ぶ。 地域包括アシシステムを理解する。				
2	介護予防と地域リハビリテーション活動支援事業①				保健師との連携とリハビリテーション専門職の派遣システムについて学ぶ。また、教員が実践しているフィル/ロコモ対策・体力測定会・市民講座などについて紹介する。				
3	介護予防と地域リハビリテーション活動支援事業②								
4	地域ケア会議				地域ケア会議(個別事例、包括レベル、市町村レベル)を理解し、理学療法士に求められる。				
5	難病支援				難病患者会の運営と他の患者団体や行政との繋がりを学ぶ。				
6	リハビリサロン作り				リハビリサロン作りを通して、自助・互助・共助・助の基本的な考えと関係性を理解する。				
7	地域リハビリテーションの展望と理学療法士の職域				理学療法士の職域拡大と制約について議論し、これら理学療法士は何ができるか考える。				
8	期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕 評価は小テストと期末試験の合計で行う。 小テスト:40点(第3,5,7,10回実施予定) *各10点期末試験:60点					〔特記事項〕 グループワークでは、積極的に意見交換してほしい。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	2	開講区分	後期	担当教員 須山 聡士先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	8
地域理学療法学									

〔授業の学習内容と心構え〕

医療機関を退院した後、住み慣れた地域で生活をおくれるよう、対象者に対する支援策について学び、さらに多職種と協力した地域社会の中で理学療法士が担う役割について理解する。本科目では、急性期、回復期、生活期のリハビリテーションに従事してきた教員が、その経験を伝えるとともに現在の医療・介護保険制度におけるリハビリテーションの現状・期待・課題についても取り上げてく。

〔到達目標〕

様々な疾患や障害によって生じる活動・動作制限を機能障害レベルでとらえる力を身に付ける。
運動障害の原因となる病態について説明できる。
代表的な疾患の特徴的な運動障害についてその特徴を挙げて説明できる。

〔使用教材、参考文献等〕

・授業時配布資料
標準理学療法学 地域理学療法学 第3版(医学書院)

〔準備学習・時間外学習〕

普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	理学療法士を取り巻く国内情勢/地域理学療法とは	地域理学療法の概念や対象を理解する。リハビリテーション過程の中での位置づけを理解する。
2	最近の医療の現状/医療保険制度の中での働き方	急性期・回復期リハビリテーションにおいて、地域学療法の視点からそれぞれの関わり方を理解する。
3	介護保険制度の中での働き方①通所リハビリテーション	介護保険制度を理解し、通所リハビリテーションにおける理学療法士としての関わり方を理解する。
4	介護保険制度の中での働き方②訪問リハビリテーション	介護保険制度を理解し、訪問リハビリテーションにおける理学療法士としての関わり方を理解する。
5	介護保険制度の中での働き方③カンファレンス	多職種の理解と退院前カンファレンス・担当者会議リハビリ会議における理学療法士の役割を理解する。
6	終末期リハビリテーション	施設入所者や末期患者の死生観や家族との死別をどう受け止め、我々には何が出来るか考える。
7	生活環境整備と事例紹介	通所、訪問、施設入所患者を紹介し、理学療法士としての関わりについて学ぶ。
8	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

〔評価について〕

評価は小テストと期末試験の合計で行う。
小テスト: 40点(第3,5,7,10回実施予定)
*各10点 期末試験: 60点

〔特記事項〕

毎授業において配布資料による授業を行う。
重要事項については下線を引いたりメモをとること。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	後期	担当教員				
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	戸倉 翔 先生				
実習教育Ⅱ								時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)												
臨床現場で理学療法士として長年実習生に対して豊富な指導経験のある専任教員による、実習に向けた身構え気構え心構えや臨床現場に必要な技法を教授する。将来像をしっかりとイメージしてほしい。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。												
〔到達目標〕 実習に必要な技法を身に付ける。												
〔使用教材、参考文献等〕 特に無し					〔準備学習・時間外学習〕 授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。							
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	PTのプロになるためには?					PTのプロとして患者様へどう接するかを考え実践できること。						
2	コーチング演習					コーチング演習を通してコーチング技法を身に付ける。						
3	文献検索					文献検索ができるようになる。						
4	脳卒中症例の問題点抽出の流れを考える①					脳卒中患者様の評価の基礎を身に付ける。						
5	脳卒中症例の問題点抽出の流れを考える②					脳卒中患者様の評価の応用を身に付ける。						
6	歩行分析					様々な歩行を比べ、歩行分析を身に付ける。						
7	MMT					MMT検査方法を身に付ける。						
8	中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。						
9	接遇について(電話・入室・文章の書き方、復習)					接遇について電話や入室方法などを身につける。						
10	スクリーニングからの評価					スクリーニングが実施できるようになる。						
11	起居動作と介助					起居動作と介助方法を身に付ける。						
12	ROM測定					ROM測定法を身に付ける。						
13	反射・知覚検査					反射・知覚検査を身に付ける。						
14	MMT					MMT検査方法を身に付ける。						
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。							